

マダイ遊漁に関するアンケート調査

現在、静岡県では静岡県漁業振興基金が中心となって、年間 100 万尾を目標にマダイ稚魚の放流事業が続けられ、マダイ漁獲量（漁業による採捕量）の安定化などの効果が得られています。

マダイは、漁業のほかに、遊漁者によって多くの量が釣獲されています。静岡県漁業振興基金が行なう遊漁船標本船調査によれば、遊漁者が釣るマダイの量（釣獲量）は、漁業による漁獲量を遥かに凌駕すると考えられています。平成 13 年には全県下の遊漁船を対象にマダイ遊漁に関するアンケート調査が行われ、マダイ釣獲量は、漁業による漁獲量を大きく上回ると見積もられました。平成 13 年から 10 年が経過し遊漁を取り巻く環境は変化していると考えられることから、静岡県漁業振興基金と協力してアンケート調査を行い、遊漁船の操業実態に関する知見を得ましたので報告します。

1 アンケート調査の実施・回収状況

調査項目は表 1 のとおりです。可能な限り多くの遊漁船業者にアンケートに答えてもらうため、静岡県の遊漁船業登録者数を基に、県内の漁協や遊漁船業協会等から遊漁船の稼動状況等を聞き取り、県内の遊漁船稼動隻数を推定し、推定した稼動遊漁船全てにアンケート用紙を配布しました。

表1 アンケートの調査項目

1. 居住地
2. 所属団体
3. 所有する船舶の規模(トン数、乗船定員)
4. 年間の遊漁船稼動日数及び釣客人数
(日数) ・30日未満 ・30～89日 ・90～149日 ・150～199日 ・200日以上
(客数) ・30人以下 ・31～100人 ・101～200人 ・201～500人 ・501～1000人 ・1001人以上
5. 釣客数の動向
・増えた ・減った ・変わらない
6. 四半期ごとの主な遊漁対象魚
・1～3月 ・4～6月 ・7～9月 ・10～12月
7. マダイを対象とした遊漁出漁の有無
・ある ・ない
8. 年間のマダイ遊漁出漁日数
9. 年間のマダイ釣獲尾数
・0尾 ・10尾以下 ・11～30尾 ・31～50尾 ・51～100尾 ・101～150尾 ・151尾以上
10. マダイ資源の動向
・増えた ・変わらない ・減った
11. マダイ放流継続の是非
・放流すべき ・放流したほうがよい ・放流しなくてよい
12. 鼻の形による放流魚識別方法
・知っている ・知らない
13. 釣客のマダイ放流認識の度合い
・多くが知っている ・どちらともいえない ・多くが知らない
14. 釣客に対するマダイ放流事業周知の必要性
・必要がある ・どちらともいえない ・必要がない

表2 地区別の配布・回収状況

地区名	配布数	回答者数	回答率(%)	地区の概要
伊豆東岸	202	83	41.1	(初島～下田)
伊豆西岸	180	64	35.6	(南伊豆～沼津我入道)
駿河湾	130	72	55.4	(田子の浦～大井川港)
榛南	125	47	37.6	(吉田町～御前崎)
遠州灘	37	13	35.1	(遠州～浜名)
静岡県全体	674	279	41.4	

遊漁船業者へのアンケート用紙の配布は、漁協等に依頼しました。表2に地区別の配布・回収状況を示しました。アンケート用紙の配布数は674部で、279の遊漁船業者から回答があり、回答率は41.4%でした。

2 調査結果

アンケートの項目は遊漁船業の規模からマダイ稚魚放流に対する釣客の意識調査まで多岐に亘っています。今回は、遊漁船によるマダイ釣獲量を推定することを目的に、平成13年調査時の結果と比較しながら遊漁の近年の動向などを説明します。

(1) 年間の遊漁船稼動日数及び釣客人数

図1に年間の遊漁船稼動日数を示しました。遊漁船業者は多くの場合、漁業を兼業しています。そのためか、遊漁船としての稼動日数が30日未満の答が最も多く33%でした。30～89日の答も多いので、遊漁船稼動日数89日未満の方の割合は57%に及びます。平成13年の調査でも遊漁船稼動日数30日未満の方が最も多い結果でしたが、平成23年調査では、平成13年に比べて稼動日数が少なくなる傾向が見られました。

図2に年間の釣客人数を示しました。平成23年調査では年間の釣客数が30人以下の答えが最も多く26%でした。平成13年調査では31～100人の答が最も多く、稼動日数同様に釣客人数も近年は減少する傾向が見られました。

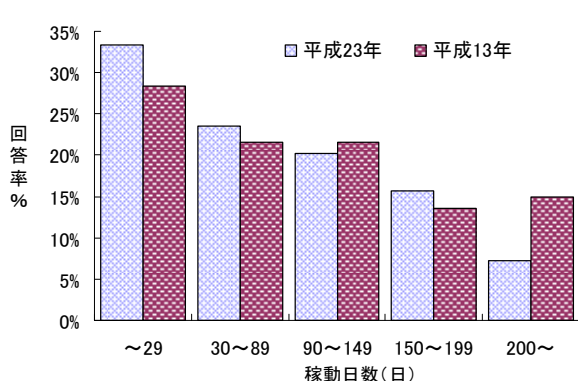


図1 年間の遊漁船稼動日数

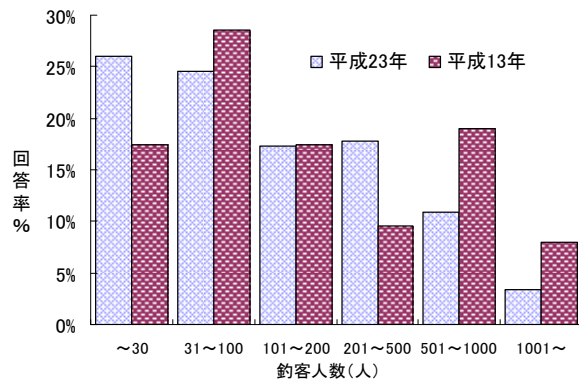


図2 年間の釣客人数

(2) 遊漁対象魚と年間のマダイ釣獲尾数

図 3 に遊漁対象魚種を示しました。複数回答で答を頂いたため、回答総数は 2,140 でした。対象魚はマダイ、イサキ、アジなど 61 種が挙げられました。中でもマダイは最も多く、381 を数えました。これは回答総数 2,140 のうち 17.8% にあたります。遊漁では様々な魚（及びイカ類）が対象になりますが、中でもマダイは最も重要な対象魚と考えられます。

図 4 に年間のマダイ釣獲尾数を示しました。平成 23 年調査では年間釣獲尾数 10 尾以下の答が最も多く 27% でした。11～30 尾とする答も多かったことから 30 尾以下の割合は 0 尾も併せると 57% に及びました。平成 13 年調査では 51～100 尾とする答が最も多く 26% でした。年間マダイ釣獲尾数も稼動日数や釣客人数と同様に減少傾向にあります。

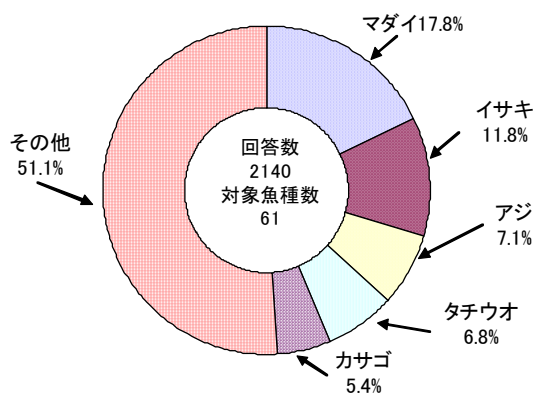


図3 遊漁対象魚種

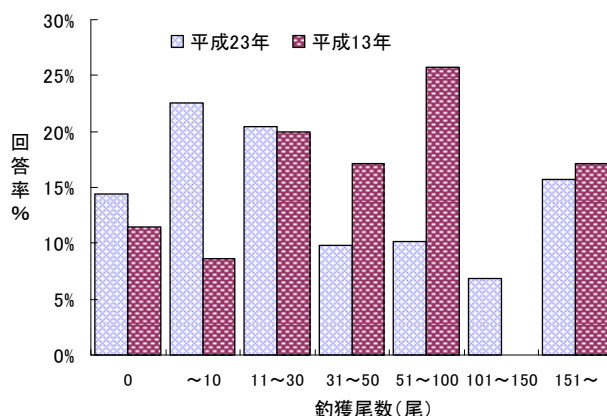


図4 年間のマダイ釣獲尾数

(3) 遊漁によるマダイ釣獲量

アンケート調査で得られたマダイ釣獲尾数をもとに、漁協への聞き取りで推定した遊漁船稼動隻数（674 隻：今回調査で推定）、マダイの平均体重（1.03 kg：標本船調査）を使って遊漁船によるマダイ釣獲量を概算すると 194 トンとなりました。

平成 13 年のアンケート調査による遊漁船マダイ釣獲量は 193～362 トンでしたので、若干減少しているとも考えられますが、漁業によるマダイ漁獲量(99 トン：平成 21 年)を大きく上回ることに変わりはなく、マダイ資源の利用において遊漁が重要な位置を占めていることに変化はないと考えられます。

表3 アンケート調査から得られた遊漁によるマダイ釣獲量

操業日数 ランク	操業隻数 (隻)A	平均釣獲尾数 (尾/隻) B	釣獲重量(トン) A×B×1.03/1000
90日未満	384	31.1	12.3
90-149日	135	169.6	23.6
150日以上	155	991.7	158.3
合 計	674		194.2

（海野幸雄）